

れいわ ねんど だい かいおおたくしやう しゃさべつかいしやうしえんちいききやうぎかい ぎじようし  
令和3年度 第1回大田区障がい者差別解消支援地域協議会 議事要旨

にち じ れいわ ねん がつ にち もく じ ぶん じ ぶん  
日 時：令和3年7月1日（木）14時30分から15時30分まで

しゅつせきしや あらき いいん いしわた いいん かわさき いいん かんせい いいん こぼり いいん さとう いいん  
出席者：荒木委員、石渡委員、川崎委員、閑製委員、小堀委員、佐藤委員、

しむら いいん すぎやま いいん すずき いいん すなおか いいん そが いいん たかはし いいん  
志村委員、杉山委員、鈴木委員、砂岡委員、曾我委員、高橋委員、

ながお いいん なかはら いいん ほりえ いいん まつもと いいん みやた いいん やまだ いいん  
長尾委員、中原委員、堀江委員、松本委員、宮田委員、山田委員、

やまね し ながわ いいんだいり よしだ いいん ごじゅうおんじゅん  
山根氏（名川委員代理）、吉田委員（五十音順）

1 かいかい  
開会

2 かいちやうあいさつ  
会長挨拶

3 ふくし ぶちやうあいさつ  
福祉部長挨拶

4 ぎだい  
議題

しやうがいしやさべつかいしやうほう かか そうだんじやうきやう れいわ ねんどしもはんき  
(1) 障害者差別解消法に係る相談状況について（令和2年度下半期）

しやうがいふくし かちやう しりやう およ しりやう もと せつめい  
障害福祉課長が資料2及び資料3に基づき説明

すなおか いいん しりやう せいりぼんごう ぼん そうだんじれい きさい ユーディー  
(砂岡委員) 資料2整理番号2番の相談事例に記載されているUDトークとは、

きやう ユーディー つか がって おおたく どうにゆう  
どういった機能があるのか。また、UDトークの使い勝手や、大田区での導入  
についてうかがいたい。

しやうがいふくし かちやう ユーディー おんせい がめん もじか どうか  
(障害福祉課長) UDトークは、音声を画面に文字化するツールである。当課

しけんてき しやう はな かた パーセントい  
で試験的に使用しているが、ゆっくりとした話し方であれば、およそ90%以

じょう もじ か  
上は文字化することができる。今後、事業者とも連携しながら活用を検討して  
ていく。

すなおか いん  
(砂岡委員) かんぺき ほんやく むずか おも  
完璧な翻訳は難しいとは思いますが、これらのツールは日々進化して  
いるため、活用を広げていけるとよい。

そ が いん  
(曾我委員) しりょう せいり ばんごう ばん  
資料 2 整理番号 1 番について、診察前にあらかじめ 10 分以上かか  
ることが予測できるケースは限られているため、実質的に受診拒否に等しく、  
ふとう さべつてきとりあつか がいとう おも  
不当な差別的取扱いに該当するケースになると思われる。クリニックには法  
せつめい たいおう し しんとう つた  
の説明、対応指針等を伝えているが、対応はそこで終了したということか。

しょう しょうごう  
(障がい者総合サポートセンター次長) じちよう とうがい しょう うむ  
当該クリニックは、障がいの有無に  
かかわらず、10分を超える診察は断っているとのことであった。

そうだんしゃ とうがい ふ しんかん ふつしよく かんが  
相談者は当該クリニックへの不信感を払拭しきれていないと考えられる  
が、クリニック側の考え方は把握したとのことで、本件は終了している。

いしわたかいちょう ほうかいせい ごうりてきはいりよ ぎむ 民間事業者にも適用されるが、これ  
(石渡会長) ほうりついはん  
は法律違反になるのではないかと。

そ が いん  
(曾我委員) ほんけん ふとう さべつてきとりあつか はなし おも かいせい かんが  
本件は、不当な差別的取扱いの話と思われるので、改正に関わら  
ず問題になる事案ではないかと。障害者差別解消法を離れても、医師法上の応  
しょうぎむ がわ かんが じじょう だんてい いろ  
召義務もある。クリニック側の考え、事情もあるため断定はできないが、色  
いろ もんだい かんが  
々な問題をはらんでいるケースであると考えられる。

みやた いん  
(宮田委員) しりょう せいり ばんごう ばん ちてきしょう かた おや そうだんないよう み  
資料 2 整理番号 12 番、知的障がいの方の親からの相談内容を見た  
ところ、障害者差別というより、単なる嫌がらせのように感じた。

このような案件をなくすためにはどうしたらいいか、法律云々ではなく、本

当の偏見の払拭のため、親の会としても頑張らなくてはいけない。

(石渡会長) 障害者差別解消法では対応し切れない、意識の問題のようなも

のをどうしたらよいかと感ずることは非常に多い。

(川崎委員) 周囲の人たちの理解を得られないことが非常に大きな問題で、ど

のように啓発活動を進めていくか、区とも考えていきたい。

(石渡会長) 教育の在り方なども含め検討していかねばならないと感ずる。

(荒木委員) 資料2整理番号6番のプールの件について、車いすの方の合理的

配慮という考えに違う部分もあるかと思う。相談者と直接、話をしてみな

ければ分からないが、介助者がつけられないのか、気楽に相談をしたり、同行

いただける方が見当たらないのか。そこも含め、改善がされていないことは心

苦しく感ずている。この場ですぐに答えは出ないが、こちらでも考えていき

たい。

(志村委員) 資料2整理番号6番、9番について、このようなことが、まさに建

設的対話ということ。当事者はいないが、周囲が気づき考え合っていく。間

に区等が入ったことが良かったと思う。このような積み重ねが大事である。

資料2の欄外に、「相談者から障がい者差別であるとの申出があった内容

を掲載しています」と書かれているが、例えば、障がい者差別だと分からな

い人たちについて、周囲が気づき、言わない限りは埋もれてしまう。

法改正される中で、地域が把握すべき情報の収集をしていくことが盛り込

まれていると思われるので、親の会の出番かもしれないが、色々なところに網を張り、さぼりとびあでも、そのような視点を持ち、これは差別案件ではないかと疑い、拾っていく作業をしてもらいたい。

## (2) 東京都での相談受付状況について（令和2年度下半期）

障害福祉課長が資料4及び資料5に基づき説明

（障害福祉課長） 現在、コロナ禍の中でマスク着用についてトラブルが多く生じている。理由があってマスク着用が難しい方に対して、周囲の理解を求めるときの区のとりにくさを紹介する。

福祉部で、理由があってマスクを着用できないことの意味表示用に缶バッジを作成した。各地域庁舎、障がい者総合サポートセンター、障害福祉課で配布している。

身近に該当者がいれば、ご案内をしてもらえると大変ありがたい。

## (3) 障害者差別解消法パンフレット（児童向け版）の活用実態調査について

障害福祉課長が資料6に基づき説明

（石渡会長） パンフレットは配布すると、そこで終わってしまうことが多いが、アンケートを実施し、後につなげる取組は本当に大事なことと感じた。

（閑製委員） 小学5年生は特に障がいに関して、多くの勉強をしており、4年生も勉強に取り組んでいる。私どもの会でも理解啓発活動として、心のバ

リアフリーを進めるため、キャラバン隊を組み、特に知的障がい者の理解を進  
めている。外見だけでは理解がされにくいところを含め啓発活動を行っている  
る。今年度も幾つかの学校から依頼を受けているため、障害福祉課とも協働  
し周知をしていきたい。

パンフレットについて、とても理解できているところも多く見受けられるた  
め、今後とも継続していきたい。

(石渡会長) 親の会のキャラバン隊の成果を色々なところで感じており、今年は  
活動を広げていただきたい。また、子どものときにこのような学ぶ場があるこ  
とは大事だと感じた。

(長尾委員) 子どもたちへの啓発の活動について、私自身も小学校のときに障  
がいのある子どもと一緒に活動をしていた。パンフレットの使用や、学校の授  
業、ホームルームの時間で学ぶ時間も大事だとは思いますが、小さなうちから一緒  
に活動をすると、子どもなりに気づくことがある。何ができるわけではないが、  
実際にその中で育ってきた私の感想である。

差別解消ということで、色々な事例が出てきたが、当事者にしてみると追い  
詰められることであり、貼り紙の件もそのように捉えられる。そのときに思う  
ことは、やはり様々な場所に相談できる場があること、一人ではないというこ  
とで随分と救われると思う。今日、明日で、解消されることではなく、色々な  
方が世の中におられるため、一人で対峙できるものでもないが、そこを支えて  
くれている人たちがいることを知っているだけでも、とても心強いのではな

いか。

(川崎委員) パンフレットには精神障がい<sup>せいしんしょうがい</sup>のことが載<sup>の</sup>っていない。精神障がい<sup>せいしんしょうがい</sup>について、小学校<sup>しょうがっこう</sup>から色々<sup>いろいろ</sup>と心<sup>こころ</sup>の問題<sup>もんだい</sup>での不登校<sup>ふとうこうとう</sup>等、いじめもあるため、ぜひ次の機会<sup>つぎのきかい</sup>には、精神障がい<sup>せいしんしょうがい</sup>のことを取り入れてほしい。

(志村委員) 閑製委員<sup>かんせいいいん</sup>が仰<sup>おっしゃ</sup>っていた親<sup>おや</sup>の会<sup>かい</sup>のキャラバン隊<sup>たい</sup>、心<sup>こころ</sup>のバリアフリー<sup>たい</sup>一<sup>じ</sup>すすめ隊<sup>ぶん</sup>をつくったのは自分<sup>ねんだい</sup>の年代<sup>おや</sup>であるが、親<sup>おや</sup>たちが自分<sup>じぶん</sup>の子<sup>こ</sup>どもの障<sup>しょう</sup>がい<sup>がい</sup>について語<sup>かた</sup>ることは、親<sup>おや</sup>も障<sup>しょう</sup>がい<sup>がい</sup>について教<sup>おそ</sup>わらず親<sup>おや</sup>になっ<sup>おや</sup>ているため、親<sup>おや</sup>たちにとっても学<sup>まな</sup>びがあ<sup>おや</sup>った。

(5) 障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>福<sup>ふく</sup>祉<sup>し</sup>課<sup>か</sup>への意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>要<sup>よう</sup>望<sup>ぼう</sup>の冒<sup>ぼう</sup>頭<sup>とう</sup>の意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>が素<sup>す</sup>晴<sup>ば</sup>らしいと思<sup>おも</sup>った。障<sup>しょう</sup>がい<sup>がい</sup>理解<sup>りかい</sup>について、どのようなカリキュラムでどう取<sup>と</sup>り組<sup>く</sup>むか、教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>委<sup>い</sup>員<sup>かい</sup>会<sup>えん</sup>と連<sup>れん</sup>携<sup>けい</sup>を取<sup>と</sup>る必要<sup>ひつよう</sup>がある。

長<sup>なが</sup>尾<sup>お</sup>委員<sup>いいん</sup>はおそ<sup>しょう</sup>らく小<sup>しょう</sup>学<sup>がく</sup>4<sup>ねん</sup>年<sup>せい</sup>生<sup>い</sup>以<sup>ぜん</sup>前<sup>しょう</sup>か<sup>ら</sup>障<sup>しょう</sup>がい<sup>がい</sup>の<sup>こ</sup>ある<sup>こ</sup>子<sup>で</sup>と出<sup>あ</sup>会<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>と考<sup>かんが</sup>え<sup>ら</sup>れる。道<sup>どう</sup>徳<sup>とく</sup>、生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>科<sup>か</sup>、何<sup>なん</sup>の<sup>じ</sup>時<sup>かん</sup>間<sup>じ</sup>でも行<sup>ぎょう</sup>事<sup>じ</sup>でもよ<sup>とく</sup>い<sup>が</sup>が、特<sup>とく</sup>別<sup>べつ</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>学<sup>がく</sup>級<sup>きゅう</sup>等<sup>とう</sup>との交<sup>こう</sup>流<sup>りゅう</sup>の機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>をぜ<sup>おや</sup>ひ親<sup>かい</sup>の会<sup>かい</sup>でも進<sup>すす</sup>め<sup>て</sup>ほ<sup>おも</sup>しいと思<sup>おも</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>。

親<sup>おや</sup>の会<sup>かい</sup>だけ<sup>で</sup>はな<sup>く</sup>、区<sup>く</sup>とし<sup>て</sup>も考<sup>かんが</sup>え<sup>て</sup>い<sup>っ</sup>て<sup>ほ</sup>しい。嫌<sup>けん</sup>悪<sup>お</sup>感<sup>かん</sup>を持<sup>も</sup>た<sup>れ</sup>る<sup>しょう</sup>障<sup>しょう</sup>がい<sup>がい</sup>の<sup>ひと</sup>ある<sup>ひと</sup>人<sup>か</sup>、家<sup>か</sup>族<sup>ぞく</sup>につ<sup>い</sup>て嫌<sup>けん</sup>悪<sup>お</sup>感<sup>かん</sup>を抱<sup>いだ</sup>くとい<sup>う</sup>こ<sup>と</sup>は、無<sup>む</sup>理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>か<sup>ら</sup>で<sup>あ</sup>る。知<sup>し</sup>ら<sup>な</sup>い<sup>から</sup>怖<sup>こわ</sup>い、知<sup>し</sup>ら<sup>な</sup>い<sup>から</sup>嫌<sup>いや</sup>だ、そ<sup>れ</sup>を<sup>すこ</sup>少<sup>すこ</sup>し<sup>も</sup>減<sup>へ</sup>ら<sup>し</sup>た<sup>い</sup>と思<sup>おも</sup>う。

川<sup>かわ</sup>崎<sup>さき</sup>委<sup>い</sup>員<sup>いいん</sup>の<sup>お</sup>仰<sup>おっしゃ</sup>ら<sup>れ</sup>た<sup>せい</sup>パ<sup>ん</sup>フ<sup>レ</sup>ッ<sup>ト</sup>に<sup>せい</sup>精<sup>しん</sup>神<sup>しょう</sup>障<sup>しょう</sup>が<sup>い</sup>い<sup>が</sup>な<sup>い</sup>とい<sup>う</sup>の<sup>は</sup>、パ<sup>ん</sup>フ<sup>レ</sup>ッ<sup>ト</sup>内<sup>ない</sup>で、恐<sup>おそ</sup>ら<sup>く</sup>心<sup>こころ</sup>の中<sup>なか</sup>とい<sup>う</sup>こ<sup>と</sup>ろ<sup>で</sup>表<sup>あらわ</sup>した<sup>の</sup>で<sup>は</sup>な<sup>い</sup>か<sup>と</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>る</sup>が、い<sup>か</sup>が<sup>か</sup>。

(川崎委員) 心<sup>こころ</sup>の<sup>も</sup>ん<sup>だ</sup>い<sup>い</sup>問題<sup>もんだい</sup>とい<sup>う</sup>こ<sup>と</sup>で<sup>は</sup>な<sup>く</sup>て、精<sup>せい</sup>神<sup>しん</sup>疾<sup>しつ</sup>患<sup>かん</sup>とい<sup>う</sup>よ<sup>う</sup>な<sup>こ</sup>と<sup>で</sup>学<sup>まな</sup>ん

でもらいたいと思ひ意見<sup>おも いけん の</sup>を述べた。

(山根氏) 学校<sup>がっこう</sup>のことに<sup>かん</sup>関して、<sup>ちい</sup>小さな<sup>まな</sup>うちから<sup>つ</sup>学<sup>か</sup>び、<sup>かさ</sup>積<sup>かさ</sup>み<sup>かさ</sup>重ねて<sup>い</sup>く<sup>こと</sup>はと  
ても<sup>じゅうよう</sup>重<sup>かん</sup>要<sup>た</sup>な<sup>た</sup>こと<sup>た</sup>である<sup>た</sup>と<sup>た</sup>感<sup>ていがくねん</sup>じた。<sup>かい</sup>例<sup>ねんせい</sup>え<sup>かい</sup>ば<sup>ちゅう</sup>低<sup>ちゅう</sup>学<sup>ちゅう</sup>年<sup>ちゅう</sup>で<sup>ちゅう</sup>1<sup>ちゅう</sup>回<sup>ちゅう</sup>、<sup>ちゅう</sup>4<sup>ちゅう</sup>年<sup>ちゅう</sup>生<sup>ちゅう</sup>で<sup>ちゅう</sup>1<sup>ちゅう</sup>回<sup>ちゅう</sup>、<sup>ちゅう</sup>また<sup>ちゅう</sup>中<sup>ちゅう</sup>  
学<sup>ちゅう</sup>に<sup>ちゅう</sup>行<sup>ちゅう</sup>つて<sup>ちゅう</sup>か<sup>ちゅう</sup>ら<sup>ちゅう</sup>も<sup>ちゅう</sup>1<sup>ちゅう</sup>回<sup>ちゅう</sup>と<sup>ちゅう</sup>い<sup>ちゅう</sup>う<sup>ちゅう</sup>よ<sup>ちゅう</sup>う<sup>ちゅう</sup>に、<sup>ちゅう</sup>繰<sup>ちゅう</sup>り<sup>ちゅう</sup>返<sup>ちゅう</sup>し<sup>ちゅう</sup>学<sup>ちゅう</sup>ぶ<sup>ちゅう</sup>こ<sup>ちゅう</sup>と<sup>ちゅう</sup>も<sup>ちゅう</sup>大<sup>ちゅう</sup>事<sup>ちゅう</sup>か<sup>ちゅう</sup>と<sup>ちゅう</sup>思<sup>ちゅう</sup>わ<sup>ちゅう</sup>れる。  
パンフレット<sup>かん</sup>の<sup>かん</sup>活<sup>かん</sup>用<sup>かん</sup>を<sup>かん</sup>何<sup>かん</sup>回<sup>かん</sup>か<sup>かん</sup>繰<sup>かん</sup>り<sup>かん</sup>返<sup>かん</sup>す<sup>かん</sup>こ<sup>かん</sup>と<sup>かん</sup>も<sup>かん</sup>検<sup>けんとう</sup>討<sup>けんとう</sup>し<sup>けんとう</sup>て<sup>けんとう</sup>ほ<sup>けんとう</sup>しい。

(砂岡委員) 施設<sup>しせつ</sup>のお<sup>まつ</sup>祭<sup>とう</sup>り<sup>ちゅう</sup>等<sup>がくせい</sup>に<sup>おおぜいき</sup>中<sup>しょうがいふくし</sup>学<sup>か</sup>生<sup>かう</sup>が<sup>かう</sup>大<sup>かう</sup>勢<sup>かう</sup>来<sup>かう</sup>て<sup>かう</sup>い<sup>かう</sup>る。<sup>かう</sup>障<sup>かう</sup>害<sup>かう</sup>福<sup>かう</sup>祉<sup>かう</sup>課<sup>かう</sup>か<sup>かう</sup>ら<sup>かう</sup>能<sup>かう</sup>動<sup>かう</sup>的<sup>かう</sup>  
に<sup>はたら</sup>働<sup>れんけい</sup>き<sup>れんけい</sup>か<sup>れんけい</sup>ける<sup>れんけい</sup>連<sup>た</sup>携<sup>せんもん</sup>で<sup>か</sup>も<sup>か</sup>い<sup>か</sup>い<sup>か</sup>が、<sup>か</sup>例<sup>か</sup>え<sup>か</sup>ば、<sup>か</sup>専<sup>か</sup>門<sup>か</sup>家<sup>か</sup>講<sup>か</sup>師<sup>か</sup>リ<sup>か</sup>ス<sup>か</sup>ト<sup>か</sup>を<sup>か</sup>作<sup>か</sup>成<sup>か</sup>し<sup>か</sup>配<sup>か</sup>付<sup>か</sup>す<sup>か</sup>る、  
あ<sup>かく</sup>る<sup>かく</sup>いは<sup>かく</sup>各<sup>かく</sup>施<sup>かく</sup>設<sup>かく</sup>長<sup>かく</sup>が<sup>かく</sup>近<sup>ちか</sup>く<sup>ちか</sup>の<sup>ちか</sup>小<sup>しょうがっこう</sup>学<sup>で</sup>校<sup>む</sup>に<sup>む</sup>出<sup>こう</sup>向<sup>わ</sup>い<sup>わ</sup>て、<sup>わ</sup>講<sup>わ</sup>話<sup>わ</sup>を<sup>わ</sup>し<sup>わ</sup>て<sup>わ</sup>い<sup>わ</sup>た<sup>わ</sup>だ<sup>わ</sup>く<sup>わ</sup>こ<sup>わ</sup>と<sup>わ</sup>は<sup>わ</sup>非<sup>わ</sup>  
常<sup>じょう</sup>に<sup>たいせつ</sup>大<sup>たいせつ</sup>切<sup>たいせつ</sup>な<sup>たいせつ</sup>こ<sup>たいせつ</sup>と<sup>たいせつ</sup>で<sup>たいせつ</sup>あ<sup>たいせつ</sup>る<sup>たいせつ</sup>た<sup>たいせつ</sup>め、<sup>たいせつ</sup>能<sup>のうどうき</sup>動<sup>はたら</sup>的<sup>おこな</sup>な<sup>まえ</sup>働<sup>すす</sup>き<sup>すす</sup>を<sup>すす</sup>行<sup>すす</sup>い、<sup>すす</sup>前<sup>すす</sup>に<sup>すす</sup>進<sup>すす</sup>め<sup>すす</sup>て<sup>すす</sup>い<sup>すす</sup>た<sup>すす</sup>だ<sup>すす</sup>け<sup>すす</sup>れ<sup>すす</sup>  
ば<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>う。

(学務課長) 学校<sup>がっこう</sup>にお<sup>さまぎま</sup>ける<sup>たいけんかつどう</sup>様<sup>しりょう</sup>々<sup>おおも</sup>な<sup>おおも</sup>な<sup>おおも</sup>体<sup>おおも</sup>験<sup>おおも</sup>活<sup>おおも</sup>動<sup>おおも</sup>に<sup>おおも</sup>つ<sup>おおも</sup>いて、<sup>おおも</sup>資<sup>おおも</sup>料<sup>おおも</sup>で<sup>おおも</sup>は<sup>おおも</sup>大<sup>おおも</sup>森<sup>おおも</sup>東<sup>おおも</sup>福<sup>おおも</sup>祉<sup>おおも</sup>園<sup>おおも</sup>が  
紹<sup>しょうかい</sup>介<sup>く</sup>さ<sup>く</sup>れ<sup>く</sup>て<sup>く</sup>い<sup>く</sup>る<sup>く</sup>が、<sup>く</sup>区<sup>く</sup>内<sup>く</sup>の<sup>く</sup>複<sup>ふく</sup>数<sup>ふく</sup>の<sup>ふく</sup>障<sup>しょうがい</sup>害<sup>しょうがい</sup>者<sup>しょうがい</sup>施<sup>かく</sup>設<sup>しょうがい</sup>と<sup>しょうがい</sup>各<sup>かく</sup>小<sup>かく</sup>学<sup>かく</sup>校<sup>かく</sup>と<sup>かく</sup>で<sup>かく</sup>交<sup>こうりゅう</sup>流<sup>も</sup>を<sup>も</sup>持<sup>も</sup>つ<sup>も</sup>て  
い<sup>じどう</sup>る。<sup>かく</sup>児<sup>かく</sup>童<sup>かく</sup>が<sup>かく</sup>各<sup>かく</sup>施<sup>かく</sup>設<sup>かく</sup>に<sup>かく</sup>赴<sup>おむ</sup>き、<sup>おむ</sup>様<sup>さま</sup>々<sup>さま</sup>な<sup>さま</sup>レ<sup>かつどう</sup>ク<sup>いっしょ</sup>リ<sup>おこな</sup>エ<sup>おこな</sup>ー<sup>おこな</sup>シ<sup>おこな</sup>ョ<sup>おこな</sup>ン<sup>おこな</sup>活<sup>おこな</sup>動<sup>おこな</sup>を<sup>おこな</sup>一<sup>おこな</sup>緒<sup>おこな</sup>に<sup>おこな</sup>行<sup>おこな</sup>つ<sup>おこな</sup>たり、  
施<sup>しせつ</sup>設<sup>かた</sup>の<sup>がっこう</sup>方<sup>き</sup>が<sup>き</sup>学<sup>じゅぎょう</sup>校<sup>よう</sup>に<sup>す</sup>来<sup>けんがく</sup>て<sup>けんがく</sup>授<sup>こうりゅうがた</sup>業<sup>じゅぎょう</sup>の<sup>さん</sup>様<sup>か</sup>子<sup>か</sup>を<sup>か</sup>見<sup>か</sup>学<sup>か</sup>し<sup>か</sup>たり、<sup>か</sup>交<sup>こうりゅうがた</sup>流<sup>じゅぎょう</sup>型<sup>さん</sup>の<sup>か</sup>授<sup>さん</sup>業<sup>か</sup>に<sup>か</sup>参<sup>さん</sup>加<sup>か</sup>し<sup>か</sup>て  
い<sup>き</sup>る<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>と<sup>き</sup>も<sup>き</sup>聞<sup>こうりゅう</sup>いて<sup>とお</sup>い<sup>しょう</sup>る。<sup>かんが</sup>交<sup>かんが</sup>流<sup>かんが</sup>を<sup>かんが</sup>通<sup>かんが</sup>して<sup>かんが</sup>障<sup>かんが</sup>が<sup>かんが</sup>い<sup>かんが</sup>を<sup>かんが</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>かんが</sup>る<sup>かんが</sup>こ<sup>かんが</sup>う<sup>かんが</sup>こ<sup>かんが</sup>と<sup>かんが</sup>い<sup>かんが</sup>う<sup>かんが</sup>こ<sup>かんが</sup>を<sup>かんが</sup>持<sup>かんが</sup>つ<sup>かんが</sup>て  
い<sup>かんが</sup>る<sup>かんが</sup>こ<sup>かんが</sup>と<sup>かんが</sup>こ<sup>かんが</sup>ろ<sup>かんが</sup>う<sup>かんが</sup>で<sup>かんが</sup>あ<sup>かんが</sup>る<sup>かんが</sup>。

対<sup>たいしょう</sup>象<sup>がくねん</sup>の<sup>がくねん</sup>学<sup>がくねん</sup>年<sup>がくねん</sup>に<sup>がくねん</sup>つ<sup>がくねん</sup>いて、<sup>がくねん</sup>教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>委<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>会<sup>かい</sup>で<sup>いんかい</sup>は<sup>いんかい</sup>一<sup>いんかい</sup>定<sup>いんかい</sup>の<sup>いんかい</sup>年<sup>いんかい</sup>齢<sup>いんかい</sup>を<sup>いんかい</sup>配<sup>いんかい</sup>慮<sup>いんかい</sup>し、<sup>いんかい</sup>小<sup>しょうがく</sup>学<sup>ねんせい</sup>4<sup>ねんせい</sup>年<sup>ねんせい</sup>生<sup>ねんせい</sup>を<sup>ねんせい</sup>  
対<sup>たいしょう</sup>象<sup>たいしょう</sup>と<sup>たいしょう</sup>して<sup>たいしょう</sup>パ<sup>たいしょう</sup>ン<sup>たいしょう</sup>フ<sup>たいしょう</sup>レ<sup>たいしょう</sup>ッ<sup>たいしょう</sup>ト<sup>たいしょう</sup>を<sup>たいしょう</sup>授<sup>じゅぎょう</sup>業<sup>と</sup>で<sup>あつか</sup>取<sup>あつか</sup>り<sup>あつか</sup>扱<sup>あつか</sup>つ<sup>あつか</sup>て<sup>あつか</sup>い<sup>あつか</sup>る。<sup>あつか</sup>た<sup>あつか</sup>だ、<sup>あつか</sup>体<sup>たいけんがた</sup>験<sup>たいけんがた</sup>型<sup>たいけんがた</sup>の<sup>たいけんがた</sup>レ<sup>たいけんがた</sup>ク<sup>たいけんがた</sup>リ<sup>たいけんがた</sup>エ<sup>たいけんがた</sup>ー<sup>たいけんがた</sup>シ<sup>たいけんがた</sup>ョ<sup>たいけんがた</sup>ン<sup>たいけんがた</sup>活<sup>たいけんがた</sup>動<sup>たいけんがた</sup>を<sup>たいけんがた</sup>  
エ<sup>こうりゅう</sup>ー<sup>こうりゅう</sup>シ<sup>こうりゅう</sup>ョ<sup>こうりゅう</sup>ン<sup>こうりゅう</sup>活<sup>ていがくねん</sup>動<sup>か</sup>や、<sup>か</sup>交<sup>げんざい</sup>流<sup>か</sup>に<sup>か</sup>つ<sup>か</sup>いて<sup>か</sup>は<sup>か</sup>低<sup>か</sup>学<sup>か</sup>年<sup>か</sup>でも<sup>か</sup>可<sup>か</sup>能<sup>か</sup>な<sup>か</sup>た<sup>か</sup>め、<sup>か</sup>現<sup>か</sup>在<sup>か</sup>は<sup>か</sup>コ<sup>か</sup>ロ<sup>か</sup>ナ<sup>か</sup>禍<sup>か</sup>で<sup>か</sup>行<sup>か</sup>  
わ<sup>かくしょうがい</sup>れて<sup>かくしょうがい</sup>い<sup>かくしょうがい</sup>ない<sup>かくしょうがい</sup>が、<sup>かくしょうがい</sup>各<sup>かくしょうがい</sup>障<sup>かくしょうがい</sup>害<sup>かくしょうがい</sup>者<sup>かくしょうがい</sup>施<sup>かくしょうがい</sup>設<sup>かくしょうがい</sup>が<sup>かくしょうがい</sup>近<sup>かくしょうがい</sup>く<sup>かくしょうがい</sup>に<sup>かくしょうがい</sup>あ<sup>かくしょうがい</sup>る<sup>かくしょうがい</sup>学<sup>かくしょうがい</sup>校<sup>かくしょうがい</sup>は、<sup>かくしょうがい</sup>施<sup>かくしょうがい</sup>設<sup>かくしょうがい</sup>の<sup>かくしょうがい</sup>お<sup>かくしょうがい</sup>祭<sup>かくしょうがい</sup>り<sup>かくしょうがい</sup>等<sup>かくしょうがい</sup>で<sup>かくしょうがい</sup>も<sup>かくしょうがい</sup>交<sup>かくしょうがい</sup>

流している。これらを含め、教育委員会として、また学校側にも様々なはたらきかけを行っていきたい。

(障害福祉課長) 以前、防災訓練で養護学校に出向いた際、心のバリアフリー一すすめ隊から知的障がいを知り、理解が格段に進んだ経験があった。

先程、川崎委員からお話のあった精神疾患の取り扱いについては、志村委員の話されたとおりで、心の中の分かりにくさという部分の中で精神の部分も扱わせていただいているが、より理解されるような取組については、進めていかなければいけないと思っている。

今回のアンケートにより、先生方に対しても意識啓発としてパンフレット活用をしていただいたり、学校の正直な気持ちとして、心の中の障がいについて取り扱いが難しいということも把握できた。

学校側の事情を把握できたことは、大変ありがたく、どの部分の取り扱いが難しいと先生方が思われているのか、より具体的に教育現場、教育委員会事務局と話し合いをできるきっかけをいただいたと思っている。

学務課とも今まで以上に連携しながら、この部分の拡充を行い、引き続き、委員の皆様からご教示いただきたいと願っている。

#### (4) 障害者差別解消法の改正について

障害福祉課長が資料7に基づき説明

(吉田委員) 全体を聞いて、障がい者がいたら助け合うことができる、それが当



たり前の社会になるといいと感じた。

(石渡会長) 国が指し示していることだけではなく、当たり前前の助け合いがで  
きる地域をつくっていく、そうなれば最初に出た差別感をどうしていくかとい  
うことも課題になってくると思われる。

(杉山委員) 資料 6 の特別支援学級と通常級の交流会というのは、同じ学校  
同士か。

(学務課長) 同じ学校の中に特別支援学級が設置されており、その中で通常  
級の児童と特別支援学級の児童が交流している。

(杉山委員) 同じ学校同士の交流もとても素晴らしいが、違う学校の特別支援学  
級に行く機会もあるとよい。

## 5 閉会